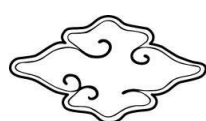


令和5年度

研修集録



秋田県立横手高等学校

現場の実践 + 学外の経験 = 研修

校長 佐藤 真之

以前、iPS細胞から作った網膜の細胞を世界で初めて患者に移植したことで知られる元理化学研究所プロジェクトリーダーの高橋政代さんの講演を聴いたことがあります。高橋先生は網膜再生医療の最先端の研究者ですが、研究者になることを最初から目指したのではなく、眼科医として患者さんの治療を続けているうち、患者さんを治したいという思いから研究の世界に足を踏み入れたそうです。研究を進めながらも患者さんの治療を続けていて、研究が目指す最終的なゴールは目の前にいる患者さんたちの医療に活かすことであり、患者さんのニーズを理解し、研究の方向性を再確認するためにも臨床現場に出ることが必要だと話していました。

私たちは教育の現場である学校で、子どもたちの成長の手助けをしています。現場で子どもたちと向き合って、教育の実践を重ねることこそが私たち教員の力量を高めることであり、異論の余地はありません。ただし、日々同じようなことを漫然と繰り返すのではなく、よく考え、計画を練って実践し、振り返って改善して、また実践することが大切です。これを繰り返していけば私たちもきっと成長していけるものと思います。今年度新たに主任になった方、卒業学年の担任を務めた方は、手探り状態での大変な毎日であったと思いますが、多くのことを学んだ1年だったのではないのでしょうか。

現場の実践だけではなく、現場の外での経験もまた、教員としての力の向上に必要です。本校でも今年度、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修を受けた職員がいますし、専門種目の指導者講習合宿に参加した部活動顧問もいます。大変だったと思いますが、指導力の向上に確実につながっていると思います。公的な機関の研修のみならず、自主的に海外研修旅行を実施された職員もいますし、生徒ではなく自身が音楽やスポーツの全国大会に出場し、立派な成績を上げた職員もいます。

教育活動とはあまり関係ないように思われる経験も、役に立つことだってあります。私の個人的な経験で言えば、自分の子どもが小学校で部活動に入っていたとき、親の会の一員として練習のお手伝いや試合の応援に参加したことがありましたが、この経験を通して部員の親の気持ちや、顧問と保護者の関係、あるいは保護者同士の人間関係など、いろいろと気付くことがあり、この気付きが後に自分の部活動の運営にも大いに役に立ちました。

教員としての力をアップさせるといっても、そのアプローチは様々です。専門知識の深化、コミュニケーション能力の向上、指導のノウハウの習得などなど。そして人間的な魅力を高めることも極めて重要です。言ってしまえば、どんな経験でも本人の意識次第で有意義な研修の機会とすることができるのではないのでしょうか。現場の実践を大切に、積極的に経験を積み、成長していきたいものです。

目 次

< 巻 頭 言 >

校 長 佐 藤 真 之

		頁
< 令和5年度校内授業研究について >	研 修 部	1
< 校内相互授業参観 >	研 修 部	2
< 指導主事訪問 >		5
(1) 国 語 科	成 田 陽 香	6
(2) 地歴公民科	阿 部 政 任	10
(3) 英 語 科	深 沢 隆 彦	14
< 公開研究授業 >		18
(1) 数 学 科	大 橋 俊 文	19
(2) 理 科	後 藤 直 地	23
(3) 保健体育科	山信田 善 宣	27
(4) 情 報 科	今 野 栄 一	31
< 研修報告 >		
年次研修		
令和5年度高等学校中堅教諭等資質向上研修報告	深 沢 隆 彦 (英語科)	33
令和5年度高等学校初任者研修報告	高 橋 奨 (国語科)	38

令和5年度 校内授業研究について

研 修 部

今年度の校内授業研究について、以下のとおり計画・実施した。

1. 概 要

令和5年度「授業改善重点事項」の達成に向けて、夏休み終了後から10月中旬及び11月中旬までを実践期間として各教科で授業実践を行う。また、取組の成果・課題の検証を目的として以下の予定で研究授業及び研究協議会を各教科で行う。

なお、研究授業及び研究協議会における検証をふまえて、終了後も継続して授業改善に努めることとする。

(令和5年度 「授業改善重点事項」)

生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり

- ・ 試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫
- ・ 協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開

2. 校内相互授業参観（詳細は「令和5年度 校内相互授業参観」(P. 2～4)を参照)

夏休み以降「授業改善重点事項」に基づいた授業改善を目的として、教員が互いに授業を参観する機会をもつ。

夏休み後から公開授業研究までの期間を目安として実施するが、それ以降も授業参観は可能とする。

3. 研究授業及び研究協議会

- ① 指導主事訪問（2回目：10月24日（火））で訪問する指導主事、教育専門監の担当教科（国語、地歴、英語）

→ 訪問時に研究授業を行い、続く研究協議会を通じて取組の成果や課題について協議する。

期 日：10月24日（火）

訪問者：高校教育課 指導主事 浅野 朋央（英 語）

指導主事 岩谷 宣行（地歴公民）

教育専門監 土門 高士（国 語）

- ② ①以外の教科（今年度は数学、理科、体育、情報）

→ 「公開研究授業」において研究授業を行い、研究協議会を通じて取組の成果や課題について協議する。（10月25日（水）～11月24（金）までの期間において、対象各教科で期日・時間を設定する。）

※日程等詳細は「令和5年度 横手高等学校公開研究授業実施要項」を参照。

令和5年度 校内相互授業参観

研 修 部

- 1 目 的
- ・教員が互いに授業を参観し、「授業改善重点事項」の達成に向けた授業づくりを目指す。
 - ・教科を越えて意見を交換し合うことにより、さまざまな視点から目標や課題を見いだす。
 - ・他の授業における生徒の状況を観察し、生徒を多面的に理解するきっかけとする。
- 2 期 間
- ・夏休み後から公開授業研究までの期間を目安とする。ただし、その期間以降も授業参観は可能とする。

3 参観方法

参観と「参観カード」(用紙に記入または Excel 様式に入力)の提出(任意)

授 業 者	参 観 者																																									
<p>①授業実施。</p> <p>②提出された「参観カード」を読み、自分の授業を振り返るきっかけにする。</p> <p>③授業参観する際の視点の一つとして活用する。</p>	<p>①授業参観。</p> <p>②授業後、「参観カード」に感想を記入し、授業者と研修部に1部ずつ提出する(提出は任意)。</p> <p>授業者への助言に限定せず、自分の授業改善に関わる気づきなどを中心に記入する。</p> <p>(参観カード)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">令和5年度 校内相互授業参観 授 業 参 観 カ ー ド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 25%;">授業者</td> <td style="width: 25%;">先生</td> <td style="width: 25%;">科目名</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>クラス</td> <td>HR</td> <td>参観日</td> <td>月 日 () 校時</td> </tr> <tr> <td>参観者名</td> <td></td> <td>参観できた時間(導入 途中 後半) 約</td> <td>分間</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <small>【重点事項】 生徒をほきぶり、深い学びに導く授業づくり ・生徒が試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫 ・協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開</small> </td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参観の 観 点 (複数可)</td> <td colspan="3"> <input type="checkbox"/>1-1 生徒の試行錯誤 <small>(参考になったこと・自分の授業に取り入れたいことを記入)</small> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input type="checkbox"/>1-2 多面的・多角的に思考・判断する発問 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input type="checkbox"/>2-1 根拠をもって表現する学習活動 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input type="checkbox"/>2-2 協働的な学び </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <input type="checkbox"/>3 その他 </td> </tr> <tr> <td colspan="4">感想・授業者へのアドバイス等</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※全項目について書く必要はありません。参観した部分でお気付きの点のみご記入ください。 ・記入した参観カードは1部コピーをとり、①授業者の先生、②研修部にそれぞれお渡しください。</small></p>	令和5年度 校内相互授業参観 授 業 参 観 カ ー ド				授業者	先生	科目名		クラス	HR	参観日	月 日 () 校時	参観者名		参観できた時間(導入 途中 後半) 約	分間	<small>【重点事項】 生徒をほきぶり、深い学びに導く授業づくり ・生徒が試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫 ・協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開</small>				参観の 観 点 (複数可)	<input type="checkbox"/> 1-1 生徒の試行錯誤 <small>(参考になったこと・自分の授業に取り入れたいことを記入)</small>			<input type="checkbox"/> 1-2 多面的・多角的に思考・判断する発問			<input type="checkbox"/> 2-1 根拠をもって表現する学習活動			<input type="checkbox"/> 2-2 協働的な学び			<input type="checkbox"/> 3 その他				感想・授業者へのアドバイス等			
令和5年度 校内相互授業参観 授 業 参 観 カ ー ド																																										
授業者	先生	科目名																																								
クラス	HR	参観日	月 日 () 校時																																							
参観者名		参観できた時間(導入 途中 後半) 約	分間																																							
<small>【重点事項】 生徒をほきぶり、深い学びに導く授業づくり ・生徒が試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫 ・協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開</small>																																										
参観の 観 点 (複数可)	<input type="checkbox"/> 1-1 生徒の試行錯誤 <small>(参考になったこと・自分の授業に取り入れたいことを記入)</small>																																									
	<input type="checkbox"/> 1-2 多面的・多角的に思考・判断する発問																																									
	<input type="checkbox"/> 2-1 根拠をもって表現する学習活動																																									
	<input type="checkbox"/> 2-2 協働的な学び																																									
<input type="checkbox"/> 3 その他																																										
感想・授業者へのアドバイス等																																										

※他教科の授業も含め、積極的に参観する。

※授業全体を通して参観することが望ましいが、部分参観も可とする。

4 実施状況（概観）

今年度は授業参観の期間を限定せず、2学期の始まりから11月下旬の公開研究授業までを大まかな目安として実施した。各教科における研究授業を見据え、多数の教員が教科の枠を越えて授業参観を行っている様子がかがわれた。また、参観カードの様式を見直し、参観の観点をより明確にしたことで、授業改善における課題を参観者が具体的に把握することができていた様子がコメントから見て取れる。一方で、教員が参観しやすくなるようにカードの提出を任意としたことで、参観者の実数や参観時期および教科バランスなどの把握が難しくなった。このことから前年度との比較は行っていない。

以下に、提出された参観カードから主だったコメントを紹介する。

5 参観カードの観点別コメント

(1) 生徒の試行錯誤

- ・後鳥羽上皇が全国の武士を動員できなかった理由を考えさせることで、北条政子の演説の意義を実感しやすい。(地歴・公民)
- ・思考する手順を確認しながら、問いを投げかけていた。(情報)
- ・J T E が生徒の理解を確認しながら簡単な英語で説明し、思考を促していた。(英語)

(2) 多面的・多角的に思考・判断する発問

- ・角度を変えて生徒に質問しているため、生徒の頭がよく動いている。(国語)
- ・最後の問が open question だった。無理にまとめず、思考を広げる方向性での展開だった。(英語)
- ・今に繋がる文化の学びができています。(国語)

(3) 根拠を持って表現する学習活動

- ・根拠を考える→班で発表する→全体に説明する→ノートにまとめる、という繰り返しのサイクルが確立されている。(理科)
- ・生徒が実際に体験することについて英語を使って表現させることでモチベーションを高く維持した活動ができています。生徒がよく考えており、前向きに試行錯誤していた。表現もよく考えたものが見られた。(英語)

(4) 協働的な学び

- ・史料を協働して読解させている。(地歴・公民)
- ・場面の状況をグループで確認し、異なる考えや論拠について議論する場面もあり、協働性を感じた。(国語)
- ・集団で話し合い、答えを探った上で、自分の活動に戻る部分が良かった。(情報)

(5) その他

- ・生徒の思考を活発にさせる仕掛けが見られる授業だった。大いに参考としたい。活動にスムーズに参加できていない生徒を全体の流れに巻き込むことができればさらに活発な授業になると思う。(英語)
- ・個の考えの全体化が難しい文法の確認が最終的にどこに向かうのかを生徒に伝えるといい。(国語)
- ・生徒と一体となって授業を進めることができている。生徒の能動性を引き出すことができていることに感心した。(国語)

6 次年度に向けた課題と改善策について

(1) 課題

相互授業参観の機会をより積極的な授業改善につなげるために、まず参観者数の増加が課題である。参観者が一部の教員にとどまっておらず、学校全体の取組に至っていない様子が見られた。参観への呼びかけについても改善が求められる。

参観時期の設定についても検討が必要である。今年度は10月に指導主事訪問、11月下旬までに公開研究授業があったこともあり参観時期を長く設定したが、参観の意義が薄れ、総じてメリハリに欠けた参観期間となったように思われる。また、同じ到達目標を長期間にわたって提示したことについても改善が必要である。大きな目標の達成に向けては具体的な段階や小目標を示し、その達成を経ることが有効な手立ての一つである。各教員が今何をすべきかをより明確にした働きかけをすることも重要である。

(2) 改善策

年度の授業改善目標を早期に提示し、学期ごとに2週間程度の授業参観期間を設定することが改善策の一つとして挙げられる。例えば1学期では到達目標と照らし合わせて参考になる点や改善が必要な点について参観を通じて全員に簡単に記録、またはGoogle Formに入力してもらい、それを研修部でまとめたものを全体に公開する。それを基に2学期以降で授業改善に取り組むように呼びかけ、取組の成果・課題の検証を目的に2学期以降で授業参観を行う期間を設けることも考えられる。

参観への負担感を最小限にしなが、その意義を意識させ、職員全体で成果・課題をまとめ、フィードバックをする流れを作り、授業改善に向けた雰囲気高める取組につなげたい。

令和5年度 指導主事等学校訪問（2回目）研究授業、授業研究会（概要）

研修部

1 期 日 令和5年10月24日（火）

2 訪問者 高校教育課 指導主事 浅野朋央先生（英語）
高校教育課 指導主事 岩谷宣行先生（地歴公民）
秋田高等学校 教育専門監 土門高士先生（国語）

※研究授業関係のみ記載

3 日程等

14:25～15:20（6校時） 研究授業 ・ 英語（24HR）
・ 地歴公民（22HR）
・ 国語（25HR）

15:35～16:20 授業研究会 ・ 英語（23HR）
・ 地歴公民（21HR）
・ 国語（26HR）

4 令和5年度「授業改善重点事項」

生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり

- ・ 試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫
- ・ 協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開

国語科（論理国語）学習指導案

日 時	令和5年10月24日（火）6校時
実施場所	秋田県立横手高等学校 2年5組教室
対象生徒	2年5組（普通科・男子16＋女子27＝計43名）
使用教材	「論理国語」（筑摩書房）
指 導 者	成田陽香

1 単元名

何気なく用いる言葉の意味を考える
（「ファンタジー・ワールドの誕生」（今福龍太））

2 単元の目標

- ①論証したり学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。（〔知識・技能〕（1）イ）
- ②設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（〔思考力・判断力・表現力〕B読むこと（1）キ）
- ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。（〔学びに向かう力・人間性〕）

3 生徒の実態

ペア・グループワークや教科書内容の説明に意欲的に取り組む生徒が多い。そこで、他教科で学習した内容や身近な事例などを用いて多角的に内容を吟味する発展的な活動をさせたい。一方、教材の内容を十分に理解しきれないため内容を自分で説明することが苦手な生徒も一定数いる。そのような生徒にもグループ課題を設定することで、主体的に文章に向きあわせたい。

4 単元の指導計画

- 1 本文を通読し、初読段階での感想や疑問をまとめる。全体の構成を理解する。（1時間）
- 2 形式段落①～④を読み、1つ目の「奇妙な行動」について読み取る。（1時間）
- 3 形式段落⑤～⑧を読み、2つ目の「奇妙な行動」について読み取る。（1時間）※本時
- 4 形式段落⑨～⑪を読み、「未開文化」に対する視点の変遷を読み取る。（1時間）
- 5 本文全体や関連資料をふまえ、「ファンタジー・ワールドの誕生」という題名がもつ意味について考える。（1時間）

5 単元の評価規準

項目	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
内容	論証したり学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習課題に沿って、評論で用いられた言葉に対して複数の資料を読み説明しあうことで、多角的な視点をもちながら粘り強く吟味しようとしている。

6 本時の目標

- ・異なる分野の文章において「差異」がどのようなはたらきをするのか説明することができる。

7 本時の指導に当たって

- ①「差異」は異なる文脈ではどのようなはたらきをするのか。複数の資料を用いて「差異」のはたらきを考えさせる。(試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫)
- ②担当する資料の要旨をまとめさせ、それを読んでいない人にも伝わるように説明させる。(協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開)

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5分	1、前時の内容を確認する。 2、学習課題と本時の流れを確認する。 学習課題:「差異」はどのようなはたらきがある？	・「現地人」と「西欧人」という対立関係や、「物語」という言葉の意味を確認させる。	
展開Ⅰ 10分	3、教科書をもとに、なぜ観光客が「値切り」を行うのか、また、なぜそれが「奇妙」なのかまとめる。	・形式段落⑤だけでなく、⑩でも民芸品の購入について述べられていること、「差異」がキーワードであることに注意させる。	
展開Ⅱ 30分	4、グループごとに担当資料を決めて、その文章では「差異」がどのようなはたらきをするのかまとめる。 5、まとめた内容を発表する。	・既習の教材を用いてまとめ方の例を示し、活動のイメージをもたせる。 ・「差異」という言葉が用いられる箇所だけでなく、文章全体をふまえるよう促す。 ・Jambordあるいは黒板掲示で発表させる。	関連資料から「差異」という言葉の意味を読み取っている。 ((思考・判断・表現) 読むこと) [ワークシート、発表]
本時の振り返り 10分	6、関連資料から読み取った「差異」のはたらきをふまえ、再度教科書本文で描かれた「差異」について考える。	・「差異」という言葉に対するイメージの深まりを意識するよう促す。	

研究授業研修会(国語)10/24(火)15:35~16:20 場所 26教室

司会 松江先生 記録 高橋奨先生

1 紹介 (2分間)

指導者 (秋田高等学校 教育専門監 土門 高士先生)

授業者 (成田 陽香 先生)、司会、記録

2 授業改善重点事項の確認 (1分間)

「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」

①試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫

②協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開

3 授業者の感想 (5分間)

- ・「差異」をキーワードに取り上げ、筆者の主張によって「差異」にどんな価値や意味があるかを考えさせたかった。
- ・本文の読み取りに時間がかかり、資料の比較のまとめまで進められなかった。前時にもう少し本文の読み取りを進めていればよかった。
- ・班内で意見のすれ違いもあったが、1枚のシートにまとめる活動で表現を磨くことができていたように感じる。
- ・「論理国語」になったため、論理性や何気なく使っている言葉を大切にする授業を普段から心掛けている。

4 3班に分かれての協議 (15分間)

5 班ごとの発表 (15分間)

(1) 1班代表 松江 正彦 先生

- ・全員に対する発問が多く、授業が動いていた印象だった。一つ一つを深掘りすると、生徒の思考が深まったのではないかな。
- ・時間のマネジメントがシステマティックで良かった。次回の授業でグループワークのまとめがどうなるのかが気になる。

(2) 2班代表 高橋 奨 先生

- ・複数資料の比較により、多面的・多角的な思考が実現できていた。
- ・ペアやグループでの活動が多く、協働的に学びを深めていた。
- ・グループの話し合いを全体のものとするまとめの時間が欲しかった。

- ・生徒の具体的な体験を引き出すことで、本文の内容を身近なものとして理解を深めている印象だった。
- ・Jamboardやプリントの形式をさらに分かりやすくすることができるか。

(3) 3班代表 宮原 公 先生

- ・導入から発問の工夫が為されていた。
- ・「逆説」「差異」という言葉への着目が面白かった。
- ・資料が少し難解だったため、読む時間が足りなかったように思われる。
- ・共有が授業の中では不足していたため、次回の授業が気になる。
- ・授業の形態が個、ペア、グループと様々に変わっていたため、思考が深まる内容であった。

6 指導・助言 (秋田高等学校 教育専門監 土門 高士 先生) (10分)

- ・無理にまとめに入らなかった点良かった。
- ・生徒の能力が高く、発問の意図を汲んでいるようだった。
- ・「ファンタジー・ワールドの誕生」は面白いが難しい教材である。多角的な視点を持たせる学習活動をすることで共通テストにも繋がる。一方で題材の論理性が怪しい部分があるため授業でどう指導するかが重要。
- ・「値切り」に対する発問の導入は、生徒が授業に入りやすい工夫になっていた。ただし、現代と本文で示される時代が異なるため、本文に戻ることが難しくなる。本文への引き戻し方がカギになる。
- ・「逆説」という現代文のキーワードの説明が分かりやすかった。説明の誘導が上手く、生徒にとって分かりやすかったと思う。一方で、入試問題を考えると論理性の理解としては不足か。直後の「すなわち」に注目して、「抽象→具体」「具体→抽象」の論理構造を電子黒板で示すことも有効であったように感じる。
- ・「差異」にこだわる意味づけが弱かった印象がある。「差異」への理解がどこで役立つかを明確に示せば、生徒をもっと引き込むことができた。
- ・国語は雑学の集積ではない。多くの文章から多様な知識を身に付けることが目的ではなく、身に付けた能力で次の文章を読むことができることを認識することが重要である。
- ・横手高校の国語の目標が何かを知りたい。共通テストの平均点など、具体的な数値で目標を定めることが授業の検証として役に立つ。

地理歴史科（地理）学習指導案

日 時	令和5年10月24日（火）6校時
実施場所	秋田県立横手高等学校 2年2組教室
対象生徒	2年2組（普通科・男子24＋女子13＝計37名）
使用教材	地理探究（二宮書店）、詳解現代地図 最新版（二宮書店）
指 導 者	阿部政任

1 単元名

第2章 資源と産業 ①農林水産業 2 社会の発展と農業の変化

2 単元の目標

- ①農業に影響を与える自然的条件と社会的条件を関連させながら、世界の農業生産の現状について理解する。
- ②作物増産のための技術革新（品種改良、遺伝子操作、農法、農薬、機械化など）を背景とした変容を知る。
- ③作物の世界的生産や流通について理解し、生産格差、経済格差、食料供給に関する課題を認識し解決を試みる。

3 生徒の実態

全員が地理選択者であり、クラス内で問題を出し合うなど、学習に対して協力関係が築かれている。一方で、文系科目と捉えられがちな地理であるため、理系科目の学習に時間を費やし、地理が後回しになる傾向がある。

4 単元の指導計画

- 1 農業の諸条件 (2時間)
- 2 社会の発展と農業の変化 (6時間) ※ 本時 3/6
- 3 グローバル化・技術革新と農業 (2時間)

5 単元の評価規準

項目	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
内容	・農業に影響を与える自然的条件と社会的条件を理解し、差異や共通点をもとに、地域的特色を見出すことができる。	・現代の農業が数々の工夫と技術革新の積み重ねであることを、流通、経済など多角的視野から考えることができる。	・農業が抱える諸課題を把握し、解決に向けて考えている。 ・特定の地域でみられた共通性、類似性原則を、他地域でも適用できないか試みている。

6 本時の目標

- ①商業的農業の本質を理解する。
- ②商業的農業が抱える課題を認識する。

7 本時の指導に当たって

- ①様々な検索ソースの使用で新たな知見を得るとともに、自らの思考を深め多角的視点を持たせるよう配慮する。
- ②自らの見解を論理的に他者に述べるとともに、自由な発言を許容する空気感を重視する。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5分	1. 農業の工夫が何のために行われてきたのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の発展に影響を与えた工夫について紹介する。 ・利益増大のために工夫されてきたことを伝える。 	
学習課題：ヨーロッパ農業の陰に迫ろう			
展開Ⅰ 15分	2. 問題に取組み周囲と意見交換をする。 3. 商業的農業の概要を知る。 4. 狭い土地を効率的に活用するための方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパで発達した農業形態を紹介する。 ・土地生産性について理解を促す。 ・利益を出すために様々な工夫をしてきたことに気づかせる。 	
具体的な発問①：商業的農業を知ろう			
展開Ⅱ 25分	5. ECの農業政策について調べる。 6. 政策によって産業が大きく左右されることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・端末を用いて事例検索をさせる。 ・EC農業政策の失策に気づかせる。 ・EC農業政策を例に、産業が健全であるために配慮すべきことを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を取り巻く社会条件として政治も関係していることを理解している。(イ)
具体的な発問②：〇〇の山、□□の湖とは？			
本時の振り返り 10分	7. 欧州と日本の共通点と相違点に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で同じような問題が起こっていないか事例を考えさせる。 ・次回の内容を予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展開で得た知見を他地域にも適用させている。(ウ)
具体的な発問③：日本はどうだろう？			

9 目指す生徒の姿

商業的農業の種類について理解し、他の地域にも原理原則を適用するとともに、例外や地域的な相違にも順応できる生徒を目指したい。

研究授業研修会(地歴公民)10/24(火)15:35～16:20 場所 21教室

司会 打矢先生 記録 木村先生

1 紹介 (2分間)

指導者 (高校教育課指導チーム 指導主事 岩谷 宣行先生)

授業者 (阿部 政任 先生)、司会、記録

2 授業改善重点事項の確認 (1分間)

「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」

①試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫

②協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開

3 授業者の感想 (5分間)

- ・「生徒を揺さぶり」に悩んだ。AIで揺さぶってみようとしてみた。答えが返ってくるか実感を持たせたいと考えた。
- ・自分でも試して準備したが、AIの回答が生徒により異なっていたことへの対応ができなかった。
- ・多様な意見を求めるデータソースの一つととらえさせたい。
- ・Bingは誰でもオープン、CopilotはMicrosoftにすでに入っているが、有料。4回までしか質問できない。

4 3班に分かれての協議 (15分間)

5 班ごとの発表 (15分間)

(1) 1班代表 津川威智夫先生

- ・AIの回答に対する生徒の判断力が必要になる。
- ・自由に話し合える雰囲気ができていて、生徒は理由・根拠までしっかり述べる力がついている。
- ・後半は一問一答的な問いかけが多くなった。時間不足だったか、もう少し協議の時間をとりたい。

(2) 2班代表 千葉丈先生

- ・プリント・板書は、バランスがよく、生徒もまとめやすくなっている。
- ・明るい空気感で意見を出しやすい雰囲気だった。
- ・思考する時間、情報交換して発表する時間があればよい。

(3) 3班代表 濱田風香先生

- A Iで違う回答でもすぐに近隣で聞き合ったりする雰囲気がある。
- A Iで違う回答が出てても表現を一般化していく過程に時間をかけたほうがよい。
- A Iの回答が何を引用しているのかを精査させてみたほうがよい。
- 問い方について、昔の政策か現在の政策かわかりづらかった。問うているのがE CかE Uか、日本のいつの時期か、など対象を絞れるキーワードを入れて比較するとよい。

6 指導・助言（高校教育課 岩谷 宣行 指導主事）（10分）

- 重要語句について、知ってる、知らないで分けるなど好奇心をつかむ導入。
- 左側のまとめは丁寧な運びではないが、プリント裏側に補足で学習できるようになっていて時間の使い方が工夫されている。
- 一般的な検索とA Iによる検索でグループ内で手分けして答えを作っていくなどもいいのでは。
- 授業の空気感がよい。違う回答のやりとりで伝わってくる。
- 今回は義務教育課のリーダーも参観した。
- 2023年7月4日に文科省が示した生成A Iの用い方も参考にしてほしい。考えられる使い方や適切でない使い方が例示されている。足りない内容を考えさせる、補足させる、など挙げられている。

英語科「英語コミュニケーションⅡ」学習指導案

実施日時：令和5年10月24日6校時

場所：横手高校2年4組教室

対象：横手高校2年4組生徒

授業者：深沢隆彦（横手高等学校）

教科書：Crown English Communication II（桐原書店）

1 単元名 Lesson 6 Walking in Gaudi's Footsteps

2 単元の目標

- (1) サグラダファミリアの主任彫刻家、外尾悦郎さんについての英文を意欲的に読み進めることができる。
- (2) 助動詞+have+過去分詞やS is C(C=whether 節)などの英文の用法を理解し、活用することができる。
- (3) 「大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うか」について英語で表現することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

- ・身近な内容について、賛成の意見、反対の意見を理由と共に即興で述べるができる。

【Grade 2 話すこと（やりとり）】

4 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
読んだり聞いたりした内容をまとめたり、簡単な感想を述べるために、それらの表現を使うことができる。	伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えている。	伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えようとしている。

5 単元観

本単元ではサグラダファミリアの主任彫刻家、外尾悦郎さんについての内容が取り上げられている。扱われている言語材料は助動詞+have+過去分詞やS is C(C=whether 節)である。Q&A でその使用に触れさせ働きを理解させていく。

6 生徒観

素直で積極的な生徒が多く、授業にも集中して臨んでいる。英文を主体的に読み込み、そこから自分の思いや考えを論理的に話したり書いたりする発信力を高めていく必要がある。

7 単元の指導計画と評価の計画（総時数：9時間）

主な言語活動計画（◎本時の内容）	評価方法
・サグラダファミリアの主任彫刻家、外尾悦郎さんに関する英文を読み概要をつかみ、要点を理解することができる。 ◎大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うか、理由とともに表現することができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・定期考査
1 時間目…Introduction and section1① 2 時間目…section1② 3 時間目…section2① * 本時 4 時間目…section2② 5 時間目…section3① 6 時間目…section3② 7 時間目…section4① 8 時間目…section4② 9 時間目…consolidation	

8 本時の学習（本時 3 / 9） *Lesson6 Section2

(1) 目標

- ①本文の T/F, Question に答えることで、section2 の概要を捉えることができる。
- ②大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うかについて与えられた立場で理由を伝えて、相手を説得することができる。その後、自分自身の意見を理由と一緒に表現できる。

(2) 指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> • Introduction(3) • Listen to the Whole Text / TF Questions(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の内容に少し触れおさらいをし、新しい section の内容へ向かう。 ○目的を持ったリスニングとなるよう T/F を確認してからリスニングを行う。
展開 ① 22分	<ul style="list-style-type: none"> • Check the Words(5) • Read & Questions(12) • Practice Reading(5) (Look & Read) 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクリーンに映し、声に出して意味やアクセント等を確認する。 ○目的を持ったリーディングとなるよう Questions を確認してからリーディングを行う。 ○クラス全員が解釈できるよう引き込む。 ○スクリーンを見ながら、ペアワークのときにつまずいた部分が解決できるよう練習させる。読み切る前にスライドを切り替え、難易度を少し上げ練習させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>学習課題：大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うかについて与えられた立場で理由を伝えて、相手を説得することができる。</p> <p>Which do you think is better, to follow your instinct or to think carefully and decide carefully when you make a big decision? And why?</p> </div>		
展開 ② 20分	<ul style="list-style-type: none"> • Discussion(10) • Writing(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ○4人を賛成2人反対2人に分け、付箋紙を用い理由を添えて伝え合う。(どちらの立場になるかはこちらで指示する。) ○学習シート(個人)にまとめクラス全体に発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>[評価]</p> <p>伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えていることができる。(活動の観察・発表・ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○発表の中で使用された効果的な表現を再確認し、発表内容に対しコメントし、全体で共有できるようにする。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> • 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ①目標①ができたか。 A・B・C ②目標②の「大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うか」について与えられた立場で理由付けして相手を説得させるように話すのができたか。 ③今日言いたかったが、言えなかったことは何か。

研究授業研修会(英語)10/24(火)15:35~16:20 場所 2 3 教室

司会 沓澤先生 記録 櫻田先生

1 紹介 (2分間)

指導者 (高校教育課指導チーム 指導主事 浅野 朋央先生)

授業者 (深沢 隆彦 先生)、司会、記録

2 授業改善重点事項の確認 (1分間)

「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」

①試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫

②協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開

3 授業者の感想 (5分間)

- ・生徒がよく頑張ってくれたと感じている。
- ・本文読解や内容に関する問いに答える時間に加え、話す活動としてディスカッションを取り入れた。
- ・本文の内容理解については概略をつかむことを優先し、言語活動に多く時間を割けるよう計画した。
- ・今回定めた学習課題について、内容がやや抽象的であったのか、苦勞している生徒も見られた。
- ・ディスカッションの立場を教員側で指定することで、生徒が自分で思っていることとは違う視点で考える機会を与えられるよう意図した。

4 3班に分かれての協議 (15分間)

5 班ごとの発表 (15分間)

(1) 1班代表：渡辺 伸吾 先生

- ・全体を通して授業のテンポが良かった。
- ・グループ活動により多様な考え方に触れられる工夫がなされていた。
- ・生徒が自分の考えを深める時間がもう少し欲しかったと感じる。
- ・出たアイデアをクラスでシェアしたり、やりとりの時間を積極的に設けたりすることでペア・グループ活動の良さがさらに引き出せるのではないかと感じた。

(2) 2班代表：佐藤 純一 先生

- ・生徒の反応が非常に良く、意見が出やすい雰囲気醸成されていた。
- ・内容理解のための共通認識を持つことができていた。
- ・生徒の活動量が確保されていた。
- ・残すべき情報を板書していると良かった。
- ・言語活動の際に、考えの例を示すことで活動の方向性が分かりやすくなると感じた。
- ・どのように活動を評価するのか。方法が示されると良いと思った。

(3) 3班代表：齊藤 千秋 先生

- ・決められた立場で話すことで多面的・多角的な考え方を促すことができていた。
- ・生徒の反応が非常に良い。
- ・それぞれの立場で課題について考えるだけでなく、例えば「その立場で考えられるメリット・デメリットは何だろうか」というような問いかけがあれば、グループ活動がさらに盛んになると思う。
- ・考えの共有をもっと行えたら良いと思う。

6 指導・助言（高校教育課 浅野 朋央 指導主事）（10分）

- ・クラスの雰囲気が非常に良く、生徒をその気にさせる状態が作れていた。主体的に諸活動に参加しており、自分の考えを積極的に伝えようとしていた。
- ・ディスカッションの立場を定めることで、多面的・多角的な思考を培う時間にすることができていたと感じる。
- ・全体的に他のクラスメイトと関わる時間が多く設定されており、協働的な学びの時間であった。
- ・諸活動に意味を持たせており、目的意識を養おうという意図が伝わった。
- ・話す活動から書く活動への接続がなされており、統合的であった。
- ・活動にメリハリがついていてテンポが良かった。
- ・良い表現が出たと感じたら、積極的に発言を拾ってクラスで共有できれば良かった。表現面でのフィードバックがあると良いと思った。

令和5年度 横手高等学校公開研究授業実施要項

研修部

- 1 目的
 - ・令和5年度「授業改善重点事項」を研究主題とした、夏季休業終了以降の各教科における取組の成果・課題の検証を行う。
 - ・近隣の小・中・高等学校・支援学校の教員に授業を公開し、意見を交換し合うことで、今後の授業改善に役立てるとともに、校種間の連携の在り方を考える。
- 2 研究主題 「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」
 - ・試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫
 - ・協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開
- 3 期 日 令和5年10月27日(金)、11月7日(火)、9日(木)、13日(月)
- 4 会 場 秋田県立横手高等学校 教室等
- 5 案内送付先 横手市内小学校(14校)・中学校(6校)・高校(本校定時制含め6校)・支援学校
南教育事務所、横手市教育委員会

6 公開授業

期日	校時	教科 (科目)	単元名・題材名	対象	場所	授業者	当日の 協議会
10月27日 (金)	3	数学(数学I)	図形と計量	15組	15HR 教室	大橋俊文	
11月9日 (木)	3	理科(地学基礎)	大気の大循環	25組	地学実験室	後藤直地	6校時
11月13日 (月)	5	保健体育(体育)	マット運動	11・12組	第一体育館	山信田善宣	
11月7日 (火)	2	情報 (MDS基礎)	プログラミング	13組	コンピュータ室	今野栄一	(3校時)

※11月7日(火)の「MDS基礎」は高教研情報部会研究大会における研究授業。本校教員は参観可(外部には公開しない)。ただし協議会は参加不可(高教研情報部会の研究協議会となるため)。

7 感染症対策

- (1) 発熱等の症状がある場合は参加を辞退してもらう。

8 その他

- (1) 校外からの参観者の対応は研修部員が行う。
- (2) 授業者は、学習指導案を授業実施日の前日まで、研修部(佐藤純)に提出すること。
データは次のフォルダに入れること。
¥¥akita_fs→分掌→研修→R5→★指導主事訪問・公開授業研究→公開授業研究 学習指導案
- (3) 授業準備(配付資料の準備等を含む)は各教科で行う。
- (4) 参観者は、アンケート用紙に感想・意見等を記入の上、授業者へ提出すること。アンケート用紙は授業教室の入り口に研修部が用意する。
当該教科・科目以外の参観も可。
- (5) 研究授業後、各教科で研究協議会を開き、協議会記録をA4版1~2枚程度にまとめて研修部に提出すること。様式は研修部フォルダ内に準備してある。

¥¥akita_fs→分掌→研修→R5→★指導主事訪問・公開授業研究→R5_協議会記録様式

数学科（数学Ⅰ）学習指導案

日 時 令和5年10月27日（金）3校時
 実施場所 秋田県立横手高等学校 1年5組教室
 対象生徒 1年5組（普通・理数科 男子19+女子16=計35名）
 使用教材 高等学校 数学Ⅰ（数研出版）
 指 導 者 大橋 俊文

1 単元名 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用

2 単元の目標

- ① 鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。また余弦定理や、三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。（知識・技能）
- ② 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。また、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察することができる。（思考・判断・表現）
- ③ 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 生徒の実態

課題に対して熱心に取り組む生徒が多く、意欲的である。控えめな生徒が多いが、グループ学習になると積極的に発言をして、自分の考え方を説明したり、他の生徒と解法を共有したりしながら学習を進めることができる。

4 単元の指導計画 (25時間)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 三角比 (2時間) | 6. 正弦定理と余弦定理の応用 (2時間) |
| 2. 三角比の相互関係 (2時間) | 7. 三角形の面積 (5時間) ※本時4/5 |
| 3. 三角比の拡張 (6時間) | 8. 空間図形への応用 (4時間) |
| 4. 正弦定理 (1時間) | 9. 章末問題 (2時間) |
| 5. 余弦定理 (1時間) | |

5 評価規準

項目	ア 知識・技能	イ 思考・判断・理解	ウ 主体的に学習に取り組む態度
内容	1. 直線の傾きから x 軸とのなす角を求めることができる。 2. 三角比の値から、三角比の表を用いて角の大きさを求めることができる。 3. 余弦定理や三角形の面積公式などの考え方をを用いて2直線のなす鋭角を求めることができる。	1. 関数の問題を図形的に捉え、既習の事項同士を関連付けて考察することができる。 2. 1つの問題を多様な解法で解決し、吟味することができる。	1. 他者と考え方を共有しながら、粘り強く多様な解法で解決しようとする。

6 本時の目標

多様な方法で、2直線のなす鋭角を求めることができる。

7 本時の指導に当たって

既習事項を利用することで、単体では大きさの不明な角の大きさを求められるようにする。また解法の過程で既習事項に関する理解を深め、グループワークを通して多様な解法を説明できるようにする。時間に余裕があれば加法定理などの発展的な解法についても紹介したい。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 8分	1. 前時までの授業を振り返り 確認テストを解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 確認テスト (5分) 次の2直線のなす鋭角 θ を求めよ。 $y = x, y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$ </div>	・直線の傾きとタンジェントの関係性に 触れ、図を用いて考えさせる。	
展開 42分	2. チャレンジ問題を解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> チャレンジ問題 (3分) 次の2直線のなす鋭角 θ を求めよ。 $y = \frac{1}{2}x, y = -\frac{1}{3}x$ </div>		
	3. 隣同士で問題について話し 合う。	・確認テストの問題と何が違うかを考え させる。 ・三角比の表を用いておおよその角の大 きさを確認させる。	
	目標：多様な方法で、2直線のなす鋭角を求めることができる。		
	4. プリントの図を参考にし て、角の大きさを求める。(始め は個人で考える。)	・辺の長さや角の大きさに着目させ、既 習の知識(余弦定理や三角形の面積、直 角二等辺三角形)を利用できないか、考 えさせる。	・余弦定理や三角形の面積公式な どの考え方を用いて2直線のなす 鋭角を求めることができる。 (ア) [観察]
	5. グループの活動 個々で考えた解法を共有する。	・グループの代表者に Jam board へ考え 方のキーワードを記入させ全体で共有す る。	・1つの問題を多様な解法で解決 し、吟味することができる。 (イ) [観察]
	6. 全体で解法を共有する。	・特定のグループに発表してもらう。	
まとめ 5分	7. 本時のまとめと振り返りを する。		

令和5年度横手高校公開研究授業 研究協議会記録（数学科）

記録者 大橋 俊文

I 日 程

【研究授業】

日 時：10月27日（金）10：50～11：45（3校時）
場 所：秋田県立横手高等学校 1年5組教室
対象生徒：1年5組（35名）
科 目 名：SS 数学 I
単 元 名：第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用
授 業 者：大橋 俊文

【研究協議会】

日 時：11月10日（金）10：50～11：45

II 研究協議会参加者

田中 武夫、千葉 将仁、木元 大輔、大橋 俊文（授業者）

III 授業者からの報告

- ・概ね学習指導案の通りに授業を進めることができた。チャレンジ問題では三角比の表を用いておおよその角度をクラス全体で共有できたので、生徒も取り組みやすかったようである。
- ・普段であれば、問題を一度解いて終わりだが、他の解法を探すために解き直すという作業は彼らにとって新鮮であり、既習事項の復習にもつながる内容となった。
- ・演習の時間は十分にとれたが、解法のパターンが大きく2通りしか出なかったのが残念である。机間指導で、各グループにもう少しアドバイスをしてもよかったかもしれない。
- ・Jamboard でグループの解法をもっと拾って全体で共有できれば活発な授業となっただろう。ただ、授業終了時に生徒から、この解法をみんなに紹介したかったという発言もあり、主体的な活動につながったことも実感できた。

IV 参加者からの感想

【良かった点】

- ・ 1年生で初々しく、授業でも積極的な反応がありよかった。生徒自身の言葉で説明させる場面がしっかりとあり、生徒も表現を考えながら発言できていた。
- ・ 扱う問題の内容も適切であり、授業の目標を達成できたのではないかな。
- ・ 方眼紙のヒントを与えるタイミングも適切であった。
- ・ 授業の最後に加法定理を紹介し、今後の学習内容につなげる部分があつてよかった。
- ・ グループの中でも生徒がお互いに説明し合つて活発な場となった。
- ・ 直交する直線同士の傾きをかけて -1 となる考え方を使つて説明している生徒もいて、発展的な内容をしっかり予習できている。
- ・ 授業の導入のペアワークで列の左側の人から右側の人に説明させるというやり方は参考になった。実践していきたい。
- ・ Jamboard で付箋紙を使つて考え方を共有するというやり方を知ることができた。

【今後に向けて】

- ・ 面積の考え方をういた解法の説明では、周りの三角形を引いて求めるなど多様な解法を紹介しても良かったのではないかな。
- ・ 教師がまとめの部分で説明することが多かったので、もっと生徒に説明させて、生徒を主役にする場面があれば良かった。

V 授業改善重点事項の達成状況

- ・ 重点事項である「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」について
一見同じように見える確認問題とチャレンジ問題だが、チャレンジ問題は直線の傾きから正接を求め定番角につなげることができない問題であり、生徒は困惑状態になった。しかし、グラフに方眼などのヒントが与えられれば、生徒は既習事項を用いて2直線のなす角を求めることができていた。さらに、多様な解法で問題を解決する過程で、1つの問題を多視点的に捉え直すこともできた。それをグループワークで共有しながら、解法を吟味する作業があつたので、授業改善重点事項を十分に捉えた授業となったと考える。

理科（地学基礎）学習指導案

日 時 令和5年11月9日（木）3校時
 実施場所 秋田県立横手高等学校 地学実験室
 対象生徒 2年5組（普通科 男子16 + 女子27 = 計43名）
 使用教材 高等学校地学基礎（啓林館）
 指導者 後藤直地

1 単元名 第2部 大気と海洋 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第2節 大気の大循環

2 単元の目標

- ① 緯度によるエネルギー収支の違いを理解している。大気の大循環によって低緯度から高緯度へ熱が輸送されていることを理解している。（知識・技能）
- ② 緯度によるエネルギー収支の違いや、大気の大循環による熱の輸送について考え、表現することができる。（思考・判断・表現）
- ③ 地球が宇宙との間でエネルギーを放出していることに興味をもち、緯度によるエネルギー収支の違いや、大気の大循環による熱の輸送にかかわる事柄について、考察を深めたり、表現しようとしていたりしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 生徒の実態

グループでの話し合いや地学的事象の理解に意欲的に取り組む生徒が多い。文系クラスであり、事象の定量的な扱いや難易度の高い科学的思考に対応できる生徒は多くない。適切な難易度の課題を数多く取り入れることで思考力を高めていきたい。

4 単元の指導計画

1. 緯度による放射・吸収の違い、熱の輸送 （1時間）
2. 風の吹き方、大気の大循環 （2時間） 本時1 / 2

項目	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
内容	1. 緯度による放射量・吸収量の違いとその原因、熱を輸送しているものを理解することができる。 2. 風の吹き方と大気が熱を輸送する仕組み、水蒸気（潜熱）による熱の輸送を理解することができる。	1. 低緯度から高緯度への熱の輸送と緯度別の放射量・吸収量のグラフを関連づけて考察し、表現することができる。 2. 高気圧・低気圧の風の吹き方を考察し表現することができる。 3. 大気による熱の輸送と水蒸気による熱の輸送を気候と関連付けて考察し、表現することができる。	1. 班のメンバーと考え方を共有しながら、協働して課題を解決しようとしている。

6 本時の目標

- ① 風の吹き方を理解し、高気圧・低気圧の風の吹き方を表現することができる。
- ② 大気による熱の輸送のしくみを理解し、気候と関連付けて考察することができる。

7 本時の指導に当たって

- ① 高気圧・低気圧の風の吹き方は既習事項であり、その理由を知ることにより理解を深めさせる。
- ② 大気の大循環についても地理等で学んでいるが、熱の輸送や気候と関連付けて考えることにより、統一的な理解を促し、自然システム、さらには地球システムの理解につなげていきたい。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 10分	学習課題： 大気による熱の輸送はどのように行われているのだろうか。		
	1. 前時の内容を確認する。 2. 風の吹き方を考え、理解する。	・ 大気が熱を運び、高緯度と低緯度の気温差が小さくなっていることを思い出させる。 ・ 天気図で風向きを考えさせる。 ・ 気圧の差と地球の自転の影響で風向きが決まることを強調する。	
展開Ⅰ 10分	具体的な発問①：高気圧・低気圧の風はどのように吹くか。		
	3. 高気圧と低気圧の風を考え、図に表現する。	・ 風を直線の矢印で表現させる。	・ 高気圧・低気圧の風を正しく表現できているか。(イ) [観察]
展開Ⅱ 27分	具体的な発問②：どのように大気が循環すると熱を運ぶことができるか。		
	4. 熱を輸送する大気の循環について考える。 5. 低緯度の大気の循環を理解する。	・ 低緯度の熱を高緯度に輸送する最も単純なモデルを考えさせる。	・ 熱を低緯度から高緯度に運ぶ大気の循環を考え、図で表現できているか。(イ) [観察]
	具体的な発問③：熱帯収束帯と亜熱帯高圧帯はどのような気候になるか。		
	6. 低緯度の大気の循環と気候の関係について考える。 7. 高緯度と中緯度の大気の循環を理解する。	・ 大気の循環を気候に関連づけて考えさせる。 ・ 船や飛行機での移動が風の影響を受けることを紹介する。	・ 緯度による気候の違いを、大気の上下運動と関連させて考え、表現できているか。(イ) [観察]
本時の振り返り 8分	8. 既習事項を確認する。		

令和5年度横手高校公開研究授業 研究協議会記録（理科）

記録者 高橋 里実

I 日程

【研究授業】

日時：11月9日（木）10：50～11：45（3校時）
場所：秋田県立横手高等学校 地学実験室
対象生徒：2年5組（43名）
科目名：地学基礎
単元名：第2部 大気と海洋 第2章 太陽放射と大気・海水の運動
第2節 大気の大循環
授業者：後藤 直地

【研究協議会】

日時：11月9日（木）14：45～15：15

II 研究協議会参加者

小西弘磨、岡本由佳子、細谷進、小野寺庸、瀬々将吏、佐々木重宏、加藤華世、高橋里実、後藤直地（授業者）

III 授業者からの報告

- ・研究授業だからと言って特別なことではなく、いつも通りの授業をした。
- ・日頃から、小さい質問をたくさんして生徒に頭を使わせる授業を心がけている。
- ・正解したら班に磁石を配り、その累積をストックさせ、評価の基準にすると伝えている。
- ・1年の地理総合ですでに大気の大循環は学んでいるので、生徒の理解は早いと感じる。
- ・初めて問いかけた問題に、時間がかかった。発問の仕方に改善が必要だと感じた。
- ・班ごとに学ぶ形態は、早めに正解する班は時間が余ってしまったり、班の中で考えない人が出てしまったりするデメリットがある。

IV 参加者からの感想

- ・ベクトルの合成で考えて風が斜めになるという考え方が物理にも通じていて、大変勉強になった。
- ・気象という身近でありながら生徒もよく分かっていないことを授業で扱い、生徒が楽しそうに授業に参加していた。
- ・図で考えさせるグループワークで、文系の生徒も考えやすい授業スタイルだった。
- ・楽しく見させていただいた。授業を放棄しているような生徒がいなかった。磁石のポイント制で生徒は評価を実感できていた。
- ・「地学基礎だからここまでかな。」という場面が何回かあった。範囲を超えて教えると理解が深まる場合もあるし、詳しく知りたい生徒もいるのかもしれない。
- ・ホワイトボードでの解答を言葉で説明させても良かったのかも。
- ・レーザーポインターでやれば画面に集中してもらいやすいのかもしれない。
- ・次から次へと質問がくるので生徒は考えざるを得なくて、ホワイトボードが効果的だった。そしてプリントでまとめるという繰り返しが、上手な流れができていた。
- ・意欲の揺さぶりは、正解するともらえる磁石の存在かもしれない。

V 授業改善重点事項の達成状況

- ・質問をたくさん出して、深い学びに導く揺さぶりがあった。
- ・問いの工夫により、試行錯誤させていた。
- ・中学校の知識と関連づけさせながら コロンブスの話題で興味を惹きつけたり、模型図を使って考えさせたりしていて、多面的・多角的に思考・判断させていた。
- ・普段の授業も、班ごとに協議しホワイトボードで説明させる形式のようで、自然と協働的な学びと根拠をもって自分の考えを表現する学習活動が展開されていた。

保健体育科（体育）学習指導案

日 時 令和5年11月13日（月）5校時
 実施場所 秋田県立横手高等学校 第1体育館
 対象生徒 1年1・2組（普通・理数科 男子38名）
 指 導 者 山信田善宣

1 単元名 器械運動（マット運動）

2 単元の目標

- ①技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 （知識及び技能）
- ②技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 （思考力、判断力、表現力等）
- ③器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保することができるようにする。 （学びに向かう力、人間性等）

3 生徒の実態

事前アンケートで運動することが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が81%だったものの、マット運動については32%に止まり、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」の方が34.6%と多かった。各技に目を向けると、倒立・側転を「できない」「試みたことがない」生徒が77.6%・65.8%と、技術的な壁が「倒立」にあることが見受けられた。倒立や前方倒立回転跳びをできるようになりたいという意欲のある生徒は多く、様々な情報をもとに練習方法等を工夫する過程を通して、技ができる楽しさや喜びを味わわせたい。

4 単元の指導計画

- | | | |
|----------------------|---------|---------|
| 1. オリエンテーション・スキルチェック | (1時間) | |
| 2. 基本的な技の確認 | (3時間) | |
| 3. 条件を変えた技や発展技への挑戦 | } (3時間) | ※本時 3/3 |
| 4. 組み合わせの工夫 | | |
| 5. まとめ（演技披露） | (2時間) | |

5 単元の評価規準

項目	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
内容	○知識 1. 技の名称や行い方運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 1. 回転系や、巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。	1. 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	1. 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃え、互いに助け合い教え合おうとしている。 2. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしている。


6 本時の目標

自己や仲間の動きの課題に気づき、練習方法や補助の仕方を工夫することができる。

7 本時の指導に当たって

自分が演技する技を選択し、その完成度を高めるために自己や仲間の動きの課題に気づき、練習方法や補助の仕方を工夫させるとともに、技のつなぎ方やアレンジに独自性を持たせるような声かけをしたい。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 10分	1 整列、挨拶、出欠確認 2 本時の学習課題の確認 3 準備運動		
	学習課題: 選択した技の完成度を高めよう		
展開 35分	4 動きの確認、課題の自覚 ・ペア or トリオで活動 ・動画を撮影しての比較	・ストレッチや感覚づくりに つながる予備運動を行う。	課題を明確にできているか。 (思考・判断・表現) [振り返りシート]
	 具体的な発問: 上達のための道のりを思い描けていますか？ 5 技の完成度を高める ・ステップカードの活用 ・ポイントやコツの検索 ・練習方法や場の工夫	・技の系統性に共通する要素 に着目させる。 ・練習内容に応じて適切な場 を設定させる。 ・技の順番や組み合わせ方を 工夫させる。	練習方法や補助の仕方を工夫 することができるか。 (思考・判断・表現) [振り返りシート]
まとめ 5分	6 Googleフォームに本時の まとめを入力する	・学習のポイントをまとめ、 授業に対する自己評価を させる。	
片付け 5分			

9 目指す生徒の姿

目標とする動きやスキルの獲得へ向けて、自分で情報を収集・選択して動きをイメージしたり練習方法を工夫したりすることができる。

令和5年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（保健体育）

記録者 山信田 善宣

I 日程

【研究授業】

日時：11月13日（月）13：30～14：25（5校時）
場所：秋田県立横手高等学校 第1体育館
対象生徒：1年1・2組（38名）
科目名：体育
单元名：器械運動（マット運動）
授業者：山信田善宣

【研究協議会】

日時：11月15日（水）11：55～12：25

II 研究協議会参加者

高久育宏、齋藤孝弘、高橋茂樹、小嶋優実、山信田善宣（授業者）

III 授業者からの報告

- ・事前アンケートから、マット運動の好意度は低かったが、どのクラスも意欲的に取り組んでくれている。
- ・基本的な技の確認や学習の方向付けをした後は、できるだけ生徒の自発的な活動となるような声かけや学習環境づくりを心がけた。
- ・翻転技に対する意欲が高く、安全面の配慮が行き届かない状況があったように思う。
- ・毎時間の活動前に、その日の学習の振り返りの観点を確認させるようにしてから、反省等のコメントの質が高まってきたように感じている。

IV 参加者からの感想

- ・導入で本時の振り返りフォームを確認させることで、生徒が見通しを持って取り組むことにつながっていた。
- ・練習のスペースを分けることで、生徒が自ら選択して取り組んでいる。
- ・学びが深まるグループ分けになっていた。
- ・グループ内でアドバイスをする場面が多く見られた。
- ・クロームブックでの動画撮影や補助等、1人では実現不可能な作業を、指示せずとも互いに力を貸し合う場面が多く見られ、日頃の指導が行き届いていると感じた。
- ・自己肯定感が強いからか、できないものに対して消極的な生徒も見られた。失敗を見せ合える信頼関係を構築させられればと思った。
- ・用具を工夫しながら使い、試行錯誤を繰り返したり、タブレットで見本と比べたりして自分の動きの改善を図る様子が見られた。
- ・生徒の「試行錯誤」や「協働的な学び」が実践できていることを感じた。
- ・フォームでの振り返りがあったが、それぞれが言語化した反省や改善点、技のポイントや成果などを、どこかのタイミングで共有する機会があると、さらに学びが深まると思った。

V 授業改善重点事項の達成状況

- ・タブレットを活用して自分の動きを確認し、上達に繋げることができていた。
- ・スキルアップシートや振り返りシートの活用により、学習の見通しを持たせることができていた。
- ・生徒同士で教え合ったり補助をしたりするなど、学び合う姿が定着していた。
- ・練習の場を工夫したり用具を工夫するなど、試行錯誤する様子が見られた。

情報科（MDS基礎）学習指導案

日 時 令和5年11月7日（火）2校時
 実施場所 秋田県立横手高等学校 コンピューター室
 対象生徒 1年3組（普通・理数科・男子19+女子16＝計35名）
 使用教材 高校情報I Python（実教出版）
 指導者 今野 栄一

1 単元名 第6章 プログラミング 3-1プログラミングの基礎

2 単元の目標

- ① プログラムの基本構造（順次構造、選択構造、反復構造）を理解する。
- ② 演算子や変数を状況に応じて使い分けすることができる。

3 生徒の実態

課題に対してひたむきに取り組み、理解しようとする姿勢がしっかり身についている。
 得意な生徒は、そうでない生徒をサポートする雰囲気形成されており、わからない点を生徒同士で解決しようとする場面が多く見られるクラスである。

4 単元の指導計画

1. 3-0 アルゴリズムとプログラミング (2時間)
2. 3-1 プログラミングの基礎 (8時間) 本時8/8

項目	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
内容	プログラム作成上の基本ルールを理解し、特に反復と選択（分岐）を中心に正しくプログラミングすることができる。	モジュールを利用して、効率的にプログラミングし、作成したプログラムが正しいかどうか考察することができる。	プログラムの作成に意欲的に取り組み、様々な手法を考えて、正しい出力結果が得られるよう取り組んでいる。

6 本時の目標

- ① モンテカルロ法のプログラムを完成させ、円周率の近似値を求めることができる。
- ② プロセスや考え方の異なるプログラムを完成させることができる。

7 本時の指導に当たって

- ① プログラミングは、作成者の考え方や個性が出せるもので、いろんな考え方で作成できることを実感させる。
- ② 他者のプログラムを見ることで、作成者の論理的思考を推察できる力を身につけさせる。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 7分	三平方の定理を使って $n/4$ の内側と外側の点の色を変えて表示させたプログラムの確認をする。	論理的にプログラミングできているか確認させる。	論理的思考がしっかりできる。(思考・判断・表現)
	学習課題: モンテカルロ法で円周率を表示させるにはどうすればよいか?		
展開Ⅰ 20分	赤い点を数えるカウンターを適切に差し込んで円周率を表示させる。	赤い点の座標を追加している箇所を確認させる。	カウンターを適切に差し込んで点の数を数えることができる。 (知識・技能)
	具体的な発問①: 赤い点を数えて表示させるにはどこにカウンターを差し込むべきか? 具体的な発問②: モンテカルロ法で算出した円周率を画面に表示させるにはどうしたらよいか?		
展開Ⅱ 20分	今までのプログラムから離れ、異なるアプローチで円周率を求めるプログラムを考える。	scatterをループに入れることのデメリットを理解させる。	様々なアプローチでモンテカルロ法をプログラムできる。 (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
本時の振り返り 8分	Googleフォームを使ってプログラミングへの取り組み姿勢を振り返る。	プログラミングの得意な分野と苦手だった分野を自己分析させ、今後の学習に活かせるようにする。	自己を冷静に見つめ直し、今後の学習意欲の向上に結びつけることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

英語科 深沢 隆彦

I 校内研修

多岐にわたった校内研修であるが、授業改善に最も力を注いだ。英語科主任をはじめ、英語科の先生方からは、指導案の作成や授業研修に関し、年間を通してきめ細かい御指導をいただいた。特に、生徒を揺さぶり深い思考に導く発問をどのように工夫するかについて、実践例に基づいた具体的なアドバイスは大いに参考になった。また、下記の教科指導等研修と併せ、授業研修の成果の集大成として高教研英語部会全県大会にて公開研究授業をする機会をいただいた。参観された多くの先生方から御指摘いただいたことを今後の授業改善に活かしていきたい。

II 校外研修

1 共通研修【令和5年6月27日(火)】【令和6年1月9日(火)】

現在担当しているホームルームの経営だけでなく学年や学校、また若手教員への助言など、学校組織のなかでリーダーシップを発揮し、中堅教諭として今後期待される役割について改めて考えさせられた。

2 教科指導等研修【令和5年8月2日(水)】【令和5年10月12日(木)】

総合教育センターにおける上記の研修に加えて、秋田県立秋田北高等学校において研究授業(9月5日)を行った。指導案は別ページを参照。

3 生徒指導等研修【令和5年8月24日(木)】

教育相談については、生徒の内面を引き出す声のかけ方や共感する姿勢など、生徒面談等にすぐ活用できる内容が多かった。学校の教育活動全体を通して、キャリア教育や道德教育の視点を持ち、今行っている取組に意味づけや価値づけをすることが大切であると感じた。

III 選択研修

詳細は別ページを参照。

IV 特定課題研究

詳細は別ページを参照。

V 研修を終えて

教職経験が10年を経過し、これまでの教員としての足跡をグラフにして振り返ると、仕事の充実感という点において浮き沈みがあることがわかった。自分の視野の狭さや経験不足を反省し、中堅教諭として今後の学校経営に貢献できるよう努めたい。

最後に、校務で多忙な中、中堅教諭等資質向上研修に御協力いただいたすべての先生方に感謝申し上げたい。

英語科「英語コミュニケーションⅡ」学習指導案

実施日時：令和5年9月5日3校時

場所：秋田北高校2年F組教室

対象：秋田北高校2年F組生徒

授業者：深沢隆彦（横手高等学校）

教科書：Heartening English Communication II（桐原書店）

1 単元名 Lesson 5 Background Music and Sharks

2 単元の目標

- (1) BGMについての英文を意欲的に読み進めることができる。
- (2) さまざまな不定詞や seem to do/have + 過去分詞などの英文の用法を理解し、活用することができる。
- (3) 「BGMが与える影響」について英語で表現することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

- ・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解し、英語で話したり書いたりして、情報や考え等を適切に伝え合うことができる。
- ・話題について、賛成または反対の立場で、意見とその理由を相手と伝え合うことができる。

【Grade 2 話すこと（やりとり）】

4 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
読んだり聞いたりした内容をまとめたり、簡単な感想を述べるために、それらの表現を使うことができる。	伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えている。	伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えようとしている。

5 単元観

本単元では BGM の効果と影響についての内容が取り上げられている。扱われている言語材料は不定詞である。seem (appear) to do / seem (appear) to have 過去分詞などが本文中に使われている。Q&A でその使用に触れさせ働きを理解させていく。

6 生徒観

真面目で素直な生徒が多く、教科の課題にもしっかき取り組み、授業にも集中して臨んでいる。ただ英文を主体的に読み込み、そこから自分の思いや考えを論理的に話したり書いたりする発信力を高めていく必要がある。

7 単元の指導計画と評価の計画（総時数：10時間）

主な言語活動計画（◎本時の内容）	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ BGM が人間に与える影響に関する英文を読み概要をつかみ、要点を理解することができる。 ◎BGM を聞きながら勉強することに賛成か反対か、理由とともに表現することができる。 1 時間目…Introduction and section1① 2 時間目…section1② 3 時間目…section2① 4 時間目…section2② 5 時間目…section3① 6 時間目…section3② 7 時間目…section4① *本時 8 時間目…section4② 9 時間目…consolidation 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・ワークシート ・定期考査

8 本時の学習（本時7／10）*Lesson5 Section4

(1) 目標

- ①本文の T/F, Question に答えることで、section4 の概要を捉えることができる。
- ②BGM を聞きながら勉強することについて与えられた立場で理由を伝えられることができる。

(2) 指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Introduction(3) ・ Listen to the Whole Text / TF Questions(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の内容に少し触れおさらいをし、新しい section の内容へ向かう。 ○目的を持ったリスニングとなるよう T/F を確認してからリスニングを行う。
展開 ① 19分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Check the Words(4) ・ Read & Questions(10) ・ Practice Reading(5) (Look & Read) 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクリーンに映し、声に出して意味やアクセント等を確認する。 ○目的を持ったリーディングとなるよう Questions を確認してからリーディングを行う。 ○クラス全員が解釈できるよう引き込む。 ○スクリーンを見ながら、ペアワークのときにつまずいた部分が解決できるよう練習させる。読み切る前にスライドを切り替え、難易度を少し上げ練習させる。
<p>学習課題：BGM を聞きながら勉強することに賛成か反対か理由をつけていえるようになるう。 Is it good or bad to listen to BGM while we are studying? And why?</p>		
展開 ② 18分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Discussion ・ Writing 	<ul style="list-style-type: none"> ○4人を賛成2人反対2人に分け、付箋紙を用い理由を添えて伝え合う。 (どちらの立場になるかはこちらで指示する。) ○学習シート（個人）にまとめクラス全体に発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[評価] 伝えたい内容をまとめ、理由を付け加えて分かりやすく伝えることができる。(活動の観察・発表・ワークシート) 【思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度】</p> </div>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の中で使用された効果的な表現を再確認し、発表内容に対する教師のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師からのフィードバックにより考えを全体で共有できるようにする。

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立横手高等学校	職・氏名	教諭 深沢 隆彦
研 修 先	野球専門店大曲ドーム		
研 修 期 間	令和 5年 8月 7日 (月) ~ 令和 5年 8月 9日 (水)		
<p>1 研修の概要</p> <p>8月7日 (月) 8 : 20 ~ 12 : 20 商品の手配と営業 13 : 20 ~ 16 : 50 お客様対応と営業</p> <p>8月8日 (火) 8 : 20 ~ 12 : 20 商品の手配と営業 13 : 20 ~ 16 : 50 取引先との商談・お客様対等</p> <p>8月9日 (水) 8 : 20 ~ 12 : 20 商品の手配と営業 13 : 20 ~ 16 : 50 取引先との商談・野球道具の補修</p> <p>2 研修の成果 (今後への生かし方も含むこと)</p> <p>3日間の研修では、営業職への理解を深めるとともに、人間関係の構築に必要なその場に応じたコミュニケーション能力の大切さを学ぶことができた。野球専門店大曲ドームは野球だけでなく様々なスポーツに関連する業務に携わっており、学校や一般のお客様と関わる場面が多くあった。商品についての知識はもちろんのこと、お客様についての情報をしっかりと把握して対応することを菊地社長は大切にされていた。お客様とのやりとりの中で信頼関係を築くには、話をいかに聴くかが大切であり、会話を通してお客様に最適な商品や提案をしていくコミュニケーション力がとても重要であることを感じ取ることができた。また、会話をいかに充実したものにするかも大切な要素の一つで、お客様の実態や実情に合わせその場に応じた菊地社長の話術からも多くのことを学んだ。商売とは、目先の利益よりも長期的な信頼関係のもと永続的に成し遂げられるものであることを実感した。</p> <p>教員として様々な生徒とこれまで関わってきたが、今回の研修は、これまでの教育活動において生徒理解は十分にできていたかを考えさせられる契機となった。相手の話をまずしっかりと聴くことが、信頼関係の第一歩となり、相手の実情を考慮し寄り添うことで、互いをよく理解することにつながることを改めて感じた。相手についての情報をこちらがどれだけ把握しているかの重要性についても、営業職を通して考えさせられた。</p> <p>こうした生徒理解は特に授業づくりにおいて大きな意味を持つと思う。授業づくりにおける深い教材研究はもちろん、生徒の理解の度合いやそれまでの学習実態等を総合的に考え合わせ進めていくことが大切である。また、学校という組織の中でよりよい教育活動を行うためには、上司や同僚とコミュニケーションをどう円滑にし、協力して物事を成し遂げるかが重要である。今回の研修では、会社経営の根幹にはチームとして同じ方向を向き、互いを理解しながら協同することが大切であると感じられる場面が多くあった。何か困ったことが発生した際にはチームで対応し、誠意をもってあたる大切さを勉強させていただいた。教員として、危機管理や緊急対応の場面で迅速かつ適切に対応できるよう、今研修で学んだことを活かしていきたい。</p> <p>菊地社長は多くのお客様や学校の先生からの信頼が厚い。その背景には、お客様とのコミュニケーションを大切に、時間をかけて関係をつくってきたという事実があった。営業先の相手が何を望んでいるか適切に把握する力は、大変勉強になった。教員として目の前の生徒が目指すべき目標は何かを適切に把握し、それを達成するために適切な課題を設定して生徒を導いていくことが私たちの使命の一つである。日々、試行錯誤を繰り返して生徒の成長のために教員としての挑戦を怠ることなく今後も研鑽に励んでいきたい。</p>			

特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	秋田県立横手高等学校	職・氏名	教 諭 深 沢 隆 彦
研究内容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他		
研究テーマ	根拠に基づき自身の考えを発信する表現活動の研究		
<p>1 研究の概要</p> <p>(1) 研究の動機</p> <p>本年度、本校では、「生徒を揺さぶり、深い学びに導く授業づくり」という授業改善重要事項を設定し、①「試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫」、②「協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開」の2点を手立てとして、組織的な授業改善に取り組んできた。本校の生徒は英語学習に対して意欲的ではあるが、根拠を持って自らの意見を相手に伝えることに課題がある。あるテーマについて、英語で自分の意見を理由を添えて発表するという活動を通じて、自分の知識や技能を用いて考えたことを表現する力を伸ばしていきたいと考えた。私が本年度2度の研究授業（10月24日、11月15日24HRにて）をさせていただく機会を得たが、そこでのねらいや生徒の変容について考察してきた。</p> <p>(2) 研究方法・授業のねらい</p> <p>自己表現活動を振り返る際に、「与えられたテーマについて、理由付けをして、自信をもって相手を説得することができたか」という視点から生徒の変容を見た。従来の授業形態では、まずアイデアを個人で考えさせ、ペアやグループで共有した後、全体に向け発表する、という形をこれまで多く用いてきた。「相手を説得する理由が思い浮かばなかった。」や「どう表現していいか自信が持てず書き表せなかった。」という感想とともに満足いく自己評価が少なかった。10月の研究授業におけるテーマは、「あなたは大きな決断をするとき直感に従う方が良いと思うか、よく考えて慎重に決めた方が良いと思うか」であった。研究授業後の研究協議会ではテーマの抽象度が高く生徒が、深く議論できていなかった等の指摘をいただいた。その反省を踏まえ、11月の研究授業では「新校舎の体育館のデザインにバイオミクリー（自然からひらめきを得た環境に配慮した考え方）を用いたデザインを採用することに反対か賛成か」というテーマを設定し、自信をもって発表させるために、発表に向かわせる活動の手順を見直してみることにした。意見や理由を出しやすい考えやすい立場を生徒自らが選択するのではなく、本授業では、①どちらの立場になるかは、こちらで指定し（4人グループの場合は廊下側2人が賛成、窓側2人が反対というようなやり方）、その与えられた立場で理由を考え②付箋紙にキーワードを書き貼付しながら理由や意見を述べ（協働しておこなうブレインストーミング）③議論を経た後、個人個人が自分がどちらの立場の考えに至ったか選択し、理由を添えて意見をまとめる、という手順とした。</p> <p>2 成果と課題</p> <p>生徒の感想には「1人では出てこないアイデアが討議することによって考え出すことができた」や「個人でまとめる際も議論を通じて出てきた表現や考え用いながら、まとめることができた」また、「個人で書く際もためらう気持ちがこれまでと比べ少なくなり、自信をもって書き発表することができた」というものが見られ、生徒が自信をもつことができるよう活動の手順や環境を設定することで、生徒の不安を取り除き、英語で考えを表現することに意欲とやりがいをもって取り組むことができていた。他者との議論の後で、自己決定させることが、試行錯誤を通じて物事を多角的に考えるという発問の工夫へもつながっていた。今後生徒たちの英語力を伸ばすために、いかにしてこの活動で得た自信と手応えを有機的につなげていくか指導を工夫していきたい。</p>			



令和5年度 高等学校初任者研修報告

国語科 高橋 奨

1. はじめに

初任者研修は、総合教育センター及び高校教育課による校外研修と、本校内で行われる一般研修及び教科研修により行われた。その中で主だったものを取り上げ、以下にまとめた。

2. 辞令交付式・校外研修「教職基礎Ⅰ」

●実施日 令和5年4月3日（月）

●場所 県庁第二庁舎・県地方総合庁舎

県庁大会議室によって行われた辞令交付式は、採用者が氏名点呼され、代表者が辞令を受け取る形式で行われた。続く講話において、少子化が進む秋田県でふるさとを支える子どもの育成を担う立場にあることを改めて自覚した。

続いて総合庁舎にて、校種別オリエンテーションが行われた。

はじめに高校教育課長より、教員としての使命感・倫理観・責任感についてお話していただいた。「教員に対する世間の目は厳しい」「常に努力を続ける姿勢が重要」ということであった。教員は公務員であり、「全体の奉仕者」としての責務を果たす必要がある。どんなときでも教育に携わる自覚を持ち、日々の行動の中で生徒・保護者・地域の方々からの信頼を受けなければならないということだった。

次に指導班より、教育公務員に求められる力について講話をいただいた。教員の授業力や指導力は教師にとって最も重要な力であり、観察・会話を通じて生徒の状況把握を常に心掛ける必要があるということだった。

最後に管理班より、教育公務員としての心構えについて講話をいただいた。内容は、どのようなときも教育に携わる人間であるという自覚をもつこと、常に学ぶ姿勢をもつことであった。加えて事故の未然防止と起きたときの初期対応についてもお話しいただいた。

高校教員になったという実感とともに、教育に関わることの責任を改めて感じる最初の研修であった。研修の中では、「採用がゴールではない」という言葉もあった。新規採用者にとって採用は一つの目標達成ではあったが、これはあくまで通過点である。目の前にいる生徒と向き合いながら最適な授業・指導を実践していくことがこれからの我々に求められることである。学校の中の様々な教育活動の中で、自分の資質を向上させていく決意を持つことができた。

3. 一般研修「本校の経営方針及び教育目標」

●実施日 令和5年4月12日（水）

●場所 本校校長室

校長先生より、経営方針と教育目標について説明と講話をいただいた。

今年度の重点目標は「未来を切り拓く人づくり すべての教育活動を通じて自己実現を支援

し、希望ある未来社会の形成者を育成する」である。「自己実現」とは、自分の強みや弱み、適正を正しく理解することから始まる。その上で、高い志をもち、自己を向上させるべく努力を重ね、社会の中で自分の能力を発揮して生きることが求められる。「未来社会の形成者」とは、正しく考え、深く思考し、正しく判断・行動をして希望ある未来社会を創っていきける人であり、そのためには確かな知識と幅広い教養、思考力や探究心が必要となるということであった。

この目標を達成し、教員としての使命を果たすために、「考えさせる授業」のあり方を模索し、効果的な学習方法を開発してほしいというお話があった。国語という教科だからこそ、特に思考力の向上には力を入れる必要がある。「インプット」でとどまらず、批判的に考えながら自分の中に取り込む「インテイク」、自分の考えを表現・論述する「アウトプット」の段階に到達する授業を開発すべきである。加えて、クラス・学年の面で、「各学年、各クラスの取り組みを観察し、効果的なクラス活動、進路活動等を開発する」という目標を示していただいた。現行の取り組みを十分に観察した上で、これまでの経験と照らし合わせたアレンジを加えながら、自分なりの方針を創り出す必要がある。日頃から生徒とのコミュニケーションも積極的に進めながら、生徒理解はもちろん、効果的なクラス活動の実現を図ることが重要であるということだった。

校長先生のお話の中で、「思考力・判断力・表現力こそが人生の成功に繋がる力」という言葉があった。その力の基盤となる「国語」という教科だからこそ、生徒の思考を引き出せている指導を行うことができているかを常に意識し続ける必要がある。グループワーク・ICTの活用を形骸化させることなく、生徒の主体的な思考を生み出す授業の本質を忘れてはならないと感じた。「未来を切り拓く」のは教員も同じである。教科の面でもクラス・学年の面でも、常に学び続け、自らの資質・能力を向上させることに努めたい。

4. 校外研修「PA研修」

●実施日 令和5年7月25日（火）

●場所 県立岩城少年自然の家

PA研修では、高等学校だけでなく、特別支援学校の初任者の先生方ともグループを組み、様々な体験に臨んだ。普段交流する機会がほとんどない校種の先生方との集団で課題に取り組むことは新鮮なものであり、活動を通じて「集団のあり方」について考えることができた。

「学校」という小さな社会に属している以上、生徒は「集団」というものから離れることはできない。学校行事ではホームルームという集団で一つの目標の達成に向けて行動する。授業ではさらに細かいグループで活動する。部活動に所属していれば、学年をまたいだ集団として活動することになる。このように「集団」として活動する際には「意思疎通」が重要である。集団として向かうべき目標を共有し、そのために何をすべきかを理解している必要がある。そして、よりよい意思疎通には「コミュニケーション」が必要である。コミュニケーションと聞くと言語を用いたやり取りが浮かぶが、必ずしも言語が必要となるわけではない。研修では言語を用いずともジェスチャーで互いの意思を伝える場面があった。重要なのは言語のみでのやり取りではなく、互いに気持ちを伝え、読み取ることである。相手に自分の気持ちや考

えを分かりやすく伝えるにはどうすればよいか、相手の気持ちや考えを正しく理解するためにはどうすればよいかなどの点で配慮をしたコミュニケーションが集団には不可欠であるといえる。

ここで課題となるのは、コミュニケーション能力や集団の意思疎通の重要性を生徒にどう気付けさせるか、ということである。研修の中では、プロジェクトアドベンチャーを体験することで気付きの機会を得ることができた。高等学校という現場を考えると、授業中の活動に取り入れることが一番ではないかと考えた。特に国語という教科については、多様な考えを組み合わせより深い考えに導く活動を取り入れやすい。グループとして一つの考えをまとめるような活動を授業に積極的に取り入れることで、「集団」のあり方を実感させることができる。加えて、各グループの取り組み方を振り返りの形でフィードバックさせることで、実感を確認なものとして自分に取り込むことに繋がる。留意すべきことは、生徒に「実感」させることである。今回の研修でも、活動を通じて「集団のあり方」について気付いたことに意味がある。教師が直接教えるのではなく、生徒が自ら考えて発見する機会を設けることを意識したい。

5. 校内研修「教職員の使命と学校事故の防止」

●実施日 令和5年7月31日（水）

●場所 本校小会議室

教頭先生より、教職員の使命と学校における危機管理について講話をしていただいた。

学校における「危機」は様々なものがある。最重要なのは児童生徒に関わる危機である。不登校、いじめ、自殺、行方不明は近年話題に挙がっている。本校ではSNS上のトラブルの事例もある。教職員に関わることもあり、信用失墜行為や公務災害などがあたる。これ以外にも学校内外での事件・事故、災害、保健関係など、学校における危機は多岐にわたる。

これらの危機を管理する上で最も大切なのは「事前の危機管理」である。安全な環境を整備し、事件・事故の発生を未然に防ぐリスク・マネジメントが重要である。また、万が一事件・事故が起こってしまった場合に備えた「発生時・事後の危機管理」が肝心である。事件・事故の被害を最小限にするよう、適切かつ迅速なクライシス・マネジメントが求められる。

研修の中では本校の危機管理の課題や改善点についても協議でき、本校の状況を見直すことができた。危機管理は学校全体で取り組むべきことであるため、職員全体で本校の課題・改善点について協議する場も必要であるように感じた。

6. 校外研修「初任者研修講座Ⅵ期」

●実施日 令和5年8月30日（水）

●場所 秋田県総合教育センター

「中学校との関連を踏まえた授業作り」というテーマで、中学校国語科の先生も交えて模擬授業と協議を行った。

はじめに中学校の『徒然草』『仁和寺にある法師』の模擬授業を参観した。前時の復習だけでなく、本時の活動の流れについても生徒全員が理解できるように配慮されていて、全体として丁寧な指導が行われていると感じた。空欄補充形式のワークシートを用い、本文の現代語訳を

全員が理解した状態で教訓を考えるとという工夫が特に印象に残った。また、教訓を考える活動は、古文を現代の自分に結びつけることに繋がるものであり、中学校段階の古文の学習として理想的であるように感じた。

次に私が『伊勢物語』『芥川』の模擬授業を行った。『今昔物語集』との比較を通じて作品の魅力を考える活動について、現代語訳による単なる本文理解では終わらない活動になっていると評価していただいた。生徒が作品のあり方の違いに気付くことをゴールとして授業の計画を立てていたので、その部分が評価されたのは良かったと思う。また、生徒との対話によって授業が展開しているという評価もいただいたので、今後も継続していきたいと感じた。

最後に互いの授業を参観した上での協議が行われた。中学校の先生方と意見を交わすと、校種に関わらず「書くこと」の指導に工夫が必要であると分かった。苦手であっても「書きたい」と思わせる発問の工夫、書き始めることへの抵抗感を薄めるためのICTの活用などが必要であるとの意見が出された。特に中学校ではICTを積極的に活用しているようだったので、協議で出されたアイデアを参考にして高校でも場面に応じた活用方法を探っていきたい。また、中学校と比較すると授業の進む速度に大きな差があると気付いた。高校に入学したばかりの生徒が最も戸惑う部分であると考えられるため、生徒の実態を見ながら中学校の丁寧さを参考にする必要があったと感じた。

7. 校外研修「授業研修」

●実施日 令和5年10月11日(水)

●場所 秋田明德館高校

秋田明德館高校にて、定時制、通信制の高校の特徴や生徒の様子について学んだ。

生活体験発表会では、定時制・通信制の学校に通う生徒の多様性を実感することができた。生徒一人一人を取り巻く環境は決して同じではなく、それぞれが不安を抱えて生きているということに改めて気付かされる機会となった。発表を聞いて気付いたことは、「自己の葛藤」を抱える生徒が多いということである。友人との付き合い方、周囲からの視線、小中学校でのいじめ、家庭環境など、きっかけは様々だが、「本当の自分とは何か」という問いに悩んでいる生徒がほとんどであり、こうした悩みや不安を解消できないからこそ、新しい環境に身を寄せることになったことを発表から感じ取ることができた。また、「定時制・通信制学校に通っている人には苦悩がある」のではなく、「苦悩があったから定時制・通信制学校に通っている」ということに気付いた。他者との関わり、自分という存在、自分の能力など、不安の種は様々だ。重要なのは、これらの不安は誰にでも当てはまるということである。今、私が向き合っている生徒にもその可能性は十分にある。だからこそ、生徒一人一人と積極的にコミュニケーションを取り、彼らが抱える不安や悩みに向き合っていきたいと感じた。

授業参観を通じて、授業のあり方が普段目にしているものと大きく異なっていることに気が付いた。まず印象に残ったのは、生徒同士の対話が少ないことである。生徒同士の対話が多いと、その分ストレスを感じる者がいることに配慮していると考えた。また、個の活動に力を入れ、指示を明確にして分かりやすさを重視していることも印象的だった。課題自体を複雑にしないことで、それを達成したことによる自己肯定感の醸成を図っているように思われた。様々

な授業を見学したが、生徒の実態に応じた指導の工夫がされているように感じた。「個別最適な学び」と言われるようになったが、その視点を新たに持つことができた。勤務校によって生徒の様相はそれぞれ異なるが、生徒の実態に応じた授業づくりの意識はどこであっても変わらない。到達すべき目標だけでなく、普段授業している生徒の姿と向き合っただけでなく、指導のあり方を考えていきたい。

最後に、秋田明德館高等学校や定時制・通信制の特徴、教師に求められる資質について、加賀谷英一校長先生から講話していただいた。秋田明德館高等学校の特徴として、生徒一人一人が自分の学び方を選べる学校であり、それに応じられる柔軟なシステムがある、とのことだった。定時制・通信制であるからこそ生徒は進路や興味に合わせた科目選択が可能になり、個に応じた指導が成されることで多様な背景や特性を持つ生徒の学びの受け皿としての役割を果たしている。また、教師に求められる資質として、「学び続ける姿勢」「生徒にしっかり向き合う姿勢」「他とつながる姿勢」が挙げられた。特に「学び続ける姿勢」については、授業力の向上のためという印象を持っていたが、「生徒と同じ空間にいるためでもある」という言葉があり感銘を受けた。生徒理解と支援ができる教員であるために、使命感を強く持って励んでいきたいと感じた。

8. 校外研修「初任者研修Ⅷ期」

●実施日 令和5年10月16日(月)

●場所 本校教室、会議室

総合教育センターより細谷林子指導主事に来校していただき、授業を参観していただいた。(指導案、協議会記録についてはP. 45～48を参照)

研究授業では『土佐日記』「門出」を用いた。学習活動として、他作品との比較を通じて「日記文学」の特性を考え、そこから「文学とは何か」まで考察することを計画していた。授業では「門出」自体の読解が不足していたため、他作品と比較しても「大げさな表現」や「虚構性」といった側面について気付く生徒は少なく、私の想定と異なる方向に着地してしまった。それに伴って、「文学とは何か」という問いまでたどり着くことができなかった。

協議会では国語科の先生より、「導入で生徒の関心を引き立てていた」、「作品を比較する活動の意味が分かる指示が為されていた」と評価していただいた。一方で、考えの共有について意見をいただいた。ジグソー形式の活動にしたことで協働的な学びはできたが、全体での考えの共有には至らなかったため、生徒の考えがまとまりきらなかったのではないかと感じた。ジグソー形式自体は良い工夫であるからこそ、活動の途中でも全体で方向性の確認をしながら進むほうが良いという助言をいただいた。

今回の協議会で評価していただいた点については今後も継続して取り入れていきたい。課題については、他の先生方の授業を見学させていただきながら、内容の精選、学習活動の形態の工夫を中心に改善していきたい。

9. 校外研修「特別支援学校訪問」

●実施日 令和5年10月25日(水)

●場所 横手支援学校

横手支援学校にて、特別支援教育について学んだ。

学校説明を受け、特別支援学校では「自立と社会参加を目指した学習」が教育の中心となっていると感じた。卒業後は、就職して社会に出る生徒が多い。そのため、自分の力で社会を生き抜くための指導が重要になる。特に印象に残ったのは作業学習である。生徒に職業生活に必要な知識、態度、意欲を持たせることを狙いとするものであり、製品作りや販売活動を通じて生徒の社会性・コミュニケーション能力を育む、教科横断的な指導が行われていた。教科の領域を分けない指導が行われることで、生徒に一番必要な社会参加に向けた学びが実現されている印象を受けた。

その後の授業参観では、どの授業でも個に応じた指導が徹底されているように感じた。調理実習では生徒一人一人に役割を与え、複数の教職員による個々の課題解決に向けた指導がなされていた。座学では本時の目標や流れを黒板に示して見通しを持たせるだけでなく、ICTを活用して学習活動の指示を明確にする工夫が見られた。様々な特性をもつ生徒たちが前向きに学びに向かう様子が印象的だった。

今回の研修を通じて、生徒一人一人の特性を理解した指導の重要性を再認識した。高校でも「障がい」という名前が付いていないだけで、生徒それぞれが困難や課題を抱えている。阿部純一校長先生のお話には、特別な支援を要する生徒は普通高校でも増えているため、彼らに対してどのように応えるかが重要であるということがあった。生徒の多様な特性を理解した「個別最適な学び」が強く求められる今だからこそ、今回の研修で得たものを今後の指導に生かしていきたい。また、「生徒にとって一番必要な学びは何か」という視点も忘れずにいたいと思う。本校では、生徒の進路の特性上、大学入試を意識した学力重視の指導になりやすい。単なる知識の押しつけにならないように注意し、今の学びが社会でどう役立つかという意味づけを強く意識していきたい。

10. 校外研修「初任者研修講座Ⅹ」

●実施日 令和6年1月17日(水)

●場所 本校(オンラインで実施)

今年度最後の校外研修であり、オンラインで実施された。

はじめに「学校における教育相談」について講義、演習が行われた。教育相談は日頃の生徒との関わり方から始まっていることを再確認できた。普段の生徒の様子を観察して細かな変化に気付くとともに、生徒から相談しやすい雰囲気を作っていきたい。また、教科担当として関わっている生徒に対して、授業中の姿という一面的な見方ではなく、活動や休み時間の姿も含めた多面的な見方が重要だと確認できた。

続く「特別活動の理解とHR経営」では、ホームルーム活動におけるICTの活用方法の協議が参考になった。一人一台端末の状況になったからこそ、ICTの特性が発揮される場面を見極めて本来の目的に沿って積極的に活用していきたい。また、いじめの未然防止に向けた特

別活動について再確認できた。生徒の居場所づくりという面でホームルームでの活動が大きな意義を持つことを意識し、次年度以降の活動を考えていきたい。

最後の「学校組織の一員として②」では自分の仕事をマネジメントするために目標の設定が重要であることを確認できた。演習の中で今後の目標を考えたとき、抽象的な目標は立てられてもそれに向けた短期目標や具体的な取り組みについては考えがまとまらない部分もあったため、普段からの意識が甘かったと反省した。生徒や保護者からの期待に応え、学校としての目標達成に貢献できるよう、日頃から目標立てとその振り返りを意識していきたい。

閉講式では日沼良樹主幹より、教員として身につけてほしい力と初任者への期待についてお話しいただいた。特に印象に残ったのは、自立的に学び続ける力を身に付けてほしいという内容だった。主体的に学び続ける教員の姿は、生徒にとって重要なロールモデルとなる。目標設定と現状把握を繰り返し、教職生涯を通じて学び続けてほしいとのことだった。私の教職人生は始まったばかりである。これからの経験や他の先生方の取り組みなど、あらゆるものを材料に教員としての学びを続けていきたい。

11. おわりに

校内、校外たくさんの先生方のおかげで、学習指導はもちろん、学校運営や生徒指導など多くのことについて理解を深めることが出来た。お忙しい中で時間を割いてくださった先生方に感謝申し上げます。この1年間、自分の未熟さを感じる場面が多くあった。これからの教職生涯で様々な経験をしていくことになるが、全ての経験を糧として学び続けたい。

国語科 学習指導案

日 時：令和5年10月16日（月）4校時

場 所：1年1組教室

対象クラス：1年1組（35名）

指 導 者：高橋 奨

使用教科書：「言語文化」（筑摩書房）

1. 単元名 人物の心情を解釈したり、古典文学の世界をイメージしたりしながら、日記文学を味わう。
（『土佐日記』『門出』）

2. 単元の見どころ

- ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。〔知識及び技能〕（1）オ
- ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B（1）エ
- ・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 単元観

『土佐日記』は平安初期に紀貫之によって書かれた日記文学である。紀貫之が土佐から帰京するまでの道中の記録を、旅の一行の女性の視点で語る日記になっている。記録的な性格が強かった従来の日記から、仮名表記による新たな表現を試みた作品であり、以後の平安女流日記文学に大きな影響を与えたとされる。これまで生徒は『宇治拾遺物語』・『十訓抄』といった説話や『伊勢物語』という歌物語に取り組んできた。この単元を通して、「日記文学」という新たなジャンルを味わうことができるとともに、そこに記された思いに現代との共通点や相違点を見いだせる教材であると考えている。

4. 生徒観

全体的に落ち着いたクラスだが、ペア・グループワークでは意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、授業で発言する生徒が固定してきていて、発言の少ない生徒については古典に対する苦手意識が出てきているように感じる。そこで、ジグソー形式の学習活動を設定させることで主体的に文章に向き合わせ、既習の古典作品や現代の文章とも比較させて古典への苦手意識を軽減させたい。

5. 単元の指導計画と評価計画

時	評価規準			学習活動
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	『土佐日記』や紀貫之の概要と「男もすなる～」の表現を理解している。			<ul style="list-style-type: none"> ○『土佐日記』や紀貫之の概要をまとめる。 ○全文を音読して主語を確認する。 ○「男もすなる～」の解釈をする。
2		本文の記述を根拠にして、『土佐日記』の特徴を読み取れている。	協働的な学びを通して、自分の考えを深めようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○『土佐日記』と他作品を比較し、「日記文学」の特徴を考える。 ○ジグソー形式で比較した部分を説明し合う。
3	本文中の諧謔表現について理解する。	諧謔表現を用いた作者の意図を読み取れている。		<ul style="list-style-type: none"> ○本文から作者が冗談めかしている表現を探す。 ○日記に記す思いについて、現代との共通点・相違点を考える。

時	評価計画（評価方法）	学習活動
1	知識・技能（行動の観察）	<ul style="list-style-type: none"> ○『土佐日記』や紀貫之の概要をまとめる。 ○全文を音読して主語を確認する。 ○「男もすなる～」の解釈をする。
2	思考・判断・表現（記述の確認） 主体的に学習に取り組む態度（行動の分析）	<ul style="list-style-type: none"> ○『土佐日記』と他作品を比較し、「日記文学」の特徴を考える。 ○ジグソー法で比較した部分を説明し合う。
3	知識・技能（行動の観察） 思考・判断・表現（記述の確認）	<ul style="list-style-type: none"> ○本文から作者が冗談めかしている表現を探す。 ○日記に記す思いについて、現代との共通点・相違点を考える。

6. 本時のねらい（2／3時間）

『土佐日記』と他作品を比較して「日記文学」の特徴に気付くことができる。

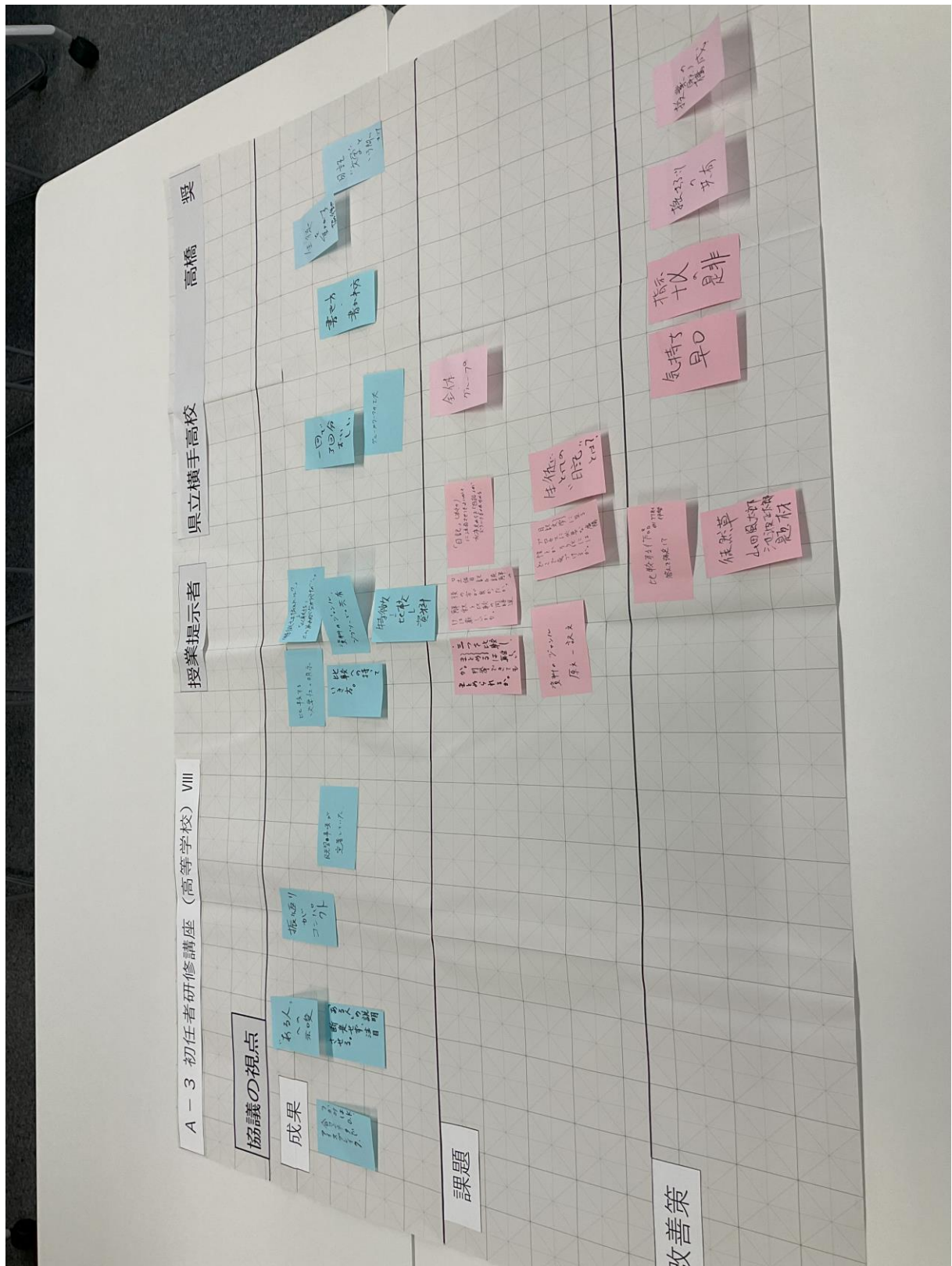
7. 本時の指導にあたって

- ①『土佐日記』が「日記文学」といわれるのはなぜか。他作品との比較を通して土佐日記が「日記文学」といわれる理由を考えさせる。(生徒が試行錯誤を通じて、物事を多面的・多角的に思考・判断する発問の工夫)
- ②ジグソー形式の学習活動により、担当資料との比較の要点について、その資料を読んでいない人にも根拠をもって説明させる。(協働的な学びの中で、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動の展開)

8. 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの振り返りをする。 ・本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">『土佐日記』の特徴を理解する。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「男もすなる～」の解釈についてペアで確認させる。 	
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">発問：『土佐日記』と他作品を比較すると、どんな特徴が見えてくるか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で資料を分担し、『土佐日記』との比較をする。 ・同じ資料との比較をした者同士でグループを作り、考えを深める。 ・最初のグループに戻り、担当資料との比較について説明する。 ・話し合いをもとに、『土佐日記』の特徴をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較した気づきをできるだけ多く書かせる。 ・個人の気づきを共通点や相違点としてグループで整理させる。 ・同じ資料を比較した者同士で、根拠を確認させる。 ・エキスパートグループで検討した内容を自分の言葉で説明させる。 ・担当資料以外との比較も踏まえて考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他作品と比較して「日記文学」の特徴に気付いている。 <p>[思考・判断・表現] (記述の点検)</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学」とは何か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで個人が触れてきた作品を思い出しながら考えをまとめさせる。 	

・「初任者研修Ⅷ期」(令和5年10月16日(月)) 協議会記録



令和5年度 研修集録

令和6年3月 発行

発行者 秋田県立横手高等学校
秋田県横手市睦成字鶴谷地 68
電話番号 0182-32-3020